

聖マリアンナ医科大学病院における勤務医負担軽減計画(2019年度版)

病院勤務医の負担軽減・処遇改善に対する具体的取り組み	具体的内容
読影結果の入力補助	<ul style="list-style-type: none"> ・画像センターに事務を配置し、医師が録音した読影結果をトランスクリバラーがレポートとして代行入力する。 ・読影内容をチェックし訂正を実施
読影の補助	<ul style="list-style-type: none"> ・消化管造影検査時テクニカルレポートの見直し ・大腸CT術前CTC作成 ・乳房撮影レポート作成 ・健診画像チェックレポート作成
病棟クラークの配置	病棟クラークを配置し、病棟における様々な事務的な雑務を実施させる。
急患トリアージナースの配置	救命救急センターに専門のナースを配置し、重症度を判断し、一次振り分け、医師への依頼要請を行っている。
手術室への事務員の配置	手術部業務の効率化のため、手術記録の入力支援等をおこない、記入漏れのないよう煩雑な事務作業を補助する。
当直体制の見直し	当直明けを休みにするなど業務の軽減に配慮し、随時当直体制を確認し適正な指導を行う。
外来予約センターの業務拡充	診療予約日の変更だけでなく、医師が判断しなくとも適切に検査日の変更等できるように業務内容の見直しと拡充をはかる。
持ち込み画像情報の取り込み、照会先へのCD作成部門の設立	医師がスムーズに画像データを読影できるように持ち込み画像データのPACSへの取り込み、紹介先へのCD作成業務等専門で行う部門を設置する。
検査説明専門窓口の設置と見直し	検査の説明等を専門的に扱う窓口を設置し、事務的業務を軽減する。造影剤使用の検査等にも拡充したい。
看護師による静脈注射実施	厚生省の提示した方針に則り、看護学会が取りまとめたガイドラインに合わせ付属病院も含めた対策に従って実施する。
メッセンジャー業務の拡大	院内の物品の搬送・補充、検体の検査室等への移送業務を拡大し、平成20年5月7日より、平日の日中だけであった院内の物品運搬システムを、夜間帯や休日についても実施している。
現行制度下で、薬剤師を積極的に活用する。	医師の指示による代行入力など薬物治療に関わる範囲に積極的な支援を行う。

病院勤務医の負担軽減・処遇改善に対する具体的取り組み	具体的内容
入退院業務のサポート体制の強化	ベッドコントロール担当ナース及びソーシャルワーカーを配置し、退院促進に向けた働きかけを早期に実施する。
外来初診時特定療養費の検討	初診時特定療養費の金額増額の検討
教育入院患者等への栄養指導の実施	教育入院患者等に対し、対象者抽出、医師へのオーダー依頼、予約取得、栄養指導の実施、を自動的に行う。
術前外来にて、患者情報、アレルギー情報取得	術前外来にて、入院前に患者情報(身長、体重、栄養スクリーニング項目)、アレルギー情報を取得
入退院支援の推進により、入院前に患者情報、アレルギー情報を取得	入院支援にて、入院予約時に患者情報(身長、体重、栄養スクリーニング項目等)、アレルギー情報を取得
放射線被ばくの説明と相談	医療被ばく事例報告書を作成、低被ばく化を促進
検査の説明と相談	患者様よりの予約検査に対する問い合わせに対応し、より良い説明環境の構築を行う
助産師外来の運用開始	助産師外来を設置する
リハビリテーション診療体制の確立	各学会認定資格保持者の育成 リハビリ診療レセプト入力補助
医師事務作業補助者の配置拡大	診療科に医師事務作業補助者メディカルコーディネータを配置し、医師の指示のもとに文書作成補助、データ加工等を行う。また、症状説明、手術説明等に参加し医師の負担軽減を図るとともに患者満足度の向上に努める。
臨床工学技士の当直	2019年度より臨床工学技士の当直開始
夜間緊急内視鏡施行時のサポート	夜間内視鏡施行時のサポート継続
特定看護師・診療看護師の導入	特定看護師(診療看護師)卒後研修の実施

病院勤務医の負担軽減・処遇改善に対する具体的取り組み	具体的内容
医師の労働時間短縮に向けた取組	タスクシフティング(業務の移管)の推進:尿道カテーテル留置(患者の性別を問わない)のシステムの再構築及びフロアー内協力体制の整備
業務のIT化促進	29年度後半から事務処理のIT化を促進している。グーグルドライブを活用。
医師の短時間勤務制度の導入	女性医師の働きやすい環境を目指して、短時間勤務制度の導入を行う。
院内保育園の設置	院内保育園の定員拡充に伴う利用可能な職種を拡大
交代勤務	救命救急センターにおいて交代勤務を実施

看護師負担軽減・処遇改善に対する具体的な取り組み項目	具体的内容
メッセンジャー業務の拡大	院内の物品の搬送・補充、検体の検査室等への移送業務を拡大し、平成20年5月7日より、平日の日中だけであった院内の物品運搬システムを、夜間帯や休日についても実施している。
病棟で看護師が実施している薬剤関連業務の委譲できる業務の検討	病棟の薬剤に関連する業務について薬剤師へ移行できる業務について、リニューアルに向け検討する
病棟薬剤師の配置	病棟薬剤師を配置し与薬等の準備を含む薬剤管理業務および抗がん剤の投与に対する積極的な支援を行う。
臨床工学技士の積極的な活用	医療安全の確保のためにも、医療機器の管理を中央化し、病棟や手術室等への臨床工学技士の積極的な介入による機器のメンテナンスや点検作業を重点的に実施する。
看護補助者の配置	看護補助者を積極的に配置し、本来の看護業務が十分発揮できるような環境を整備する。
病棟クラークの配置	病棟クラークを配置し、病棟における様々な事務的な雑務を実施させる。
救命受付での紹介状のスキャン業務の対応	救命受付を経由する入院患者の紹介状スキャンを実施することによって、看護師・医師がすぐにカルテを確認できる。また、書類の紛失を防ぐ。
ベッドメイキング・ベッド清掃作業者の整備	ベッドメイキング・ベッド清掃担当者を整備し、業務の効率化に貢献させる。
コスト記録の入力補助者の配置	手術部業務の効率化のため、医事課保険請求経験者を手術室に配置し、コスト記録等の入力業務の支援等をおこない、記入漏れのないよう煩雑な事務作業を補助する。
教育入院患者等への栄養指導の実施	教育入院患者等に対し、対象者抽出、医師へのオーダー依頼、予約取得、栄養指導の実施、を自動的に行う。
術前外来にて、患者情報、アレルギー情報取得	術前外来にて、入院前に患者情報(身長、体重、栄養スクリーニング項目)、アレルギー情報を取得
入退院支援の推進により、入院前に患者情報、アレルギー情報を取得	入院支援にて、入院予約時に患者情報(身長、体重、栄養スクリーニング項目等)、アレルギー情報を取得
検査技師による病棟採血	病棟に検査技師を配置し採血業務を支援する。
病棟内リハビリの実施件数増加	病棟にPTを派遣し、病棟内リハビリの実施件数増加を図る。
検査の説明と相談	厚生労働省の示すチーム医療普及推進事業、診療放射線技師の業務範囲の拡大に即して、説明範囲を拡大